

## ヨハネによる福音書 一章一〜五、九〜十四、十六〜十八節

1 1 初めに言があつた。言は神と共にあつた。言は神であつた。2 この言は、初めに神と共にあつた。3 万物は言によつて成つた。成つたもので、言によらずに成つたものは何一つなかつた。4 言の内に命があつた。命は人間を照らす光であつた。5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかつた。

・ ・ ・ ・ 9 その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。10 言は世にあつた。世は言によつて成つたが、世は言を認めなかつた。11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかつた。12 しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。13 この人々は、血によつてではなく、肉の欲によつてではなく、人の欲によつてもなく、神によつて生まれたのである。

14 言は肉となつて、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であつて、恵みと真理とに満ちていた。・ ・ ・ 16 わたしたちは皆、この方の満ちあふれる豊かさの中から、恵みの上に、更に恵みを受けた。17 律法はモーセを通して与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストを通して現れたからである。18 いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである。